

על-פלוי מים

流れのほとり

連絡先 〒807-8691 北九州市八幡南郵便局私書箱 26 号 本部 TEL&FAX 093(692)8592

所在地 〒807-0004 北九州市小倉北区鍛冶町 2-3-13 北九州 YMCA 内

HP <http://bible-school.name/>

E-Mail hope_to_tomorrow.y@san.bbq.jp

第8回ピスガ聖会のご案内

校長 野村 幸生

本校は、二年に一度ピスガ聖会を開催してまいりました。昨年度は、都合により開催できませんでした。この度、前回の2009年に引き続き、お隣の韓国仁川市より仁川桂山中央メソジスト教会（会員7000名）名誉牧師 崔 世雄監督を聖会講師に迎え、開催することになりました。

本聖会のために三度目の来日となりました。崔 世雄先生は、韓国内はもとより国外も含め多方面に用いられている神の器です。特に「伝道力アップセミナー」は、韓国で定評があり、受講する人々が韓國中から殺到していると聞きます。一部には閉塞感を覚えます福音宣教の業ですが、私どもの伝道力の向上のためにも、本聖会にご参加下されば幸いです。

崔 世雄先生推薦のことば

韓国永化女子高等学校

元校長 徐 基澤

私が崔先生にお会いする度に思い起こすことは、主の僕モーセが後継者ヨシュアに命じた「ただ強く、大いに雄々しくあれ、・・右にも左にもそれではならない。そうすれば、あなたは、その行く先々で、栄え成功する」（ヨシュア記1章7節以下）という言葉です。

1971年に先生が赴任された頃の仁川桂山中央教会は、会員数130名でした。しかし、定年引退された2008年には、その60倍を上回る7000名ほどの会員数に増え、敷地100坪余りの小さい教会から120倍以上の地境を拡大する素晴らしい教会に成長したのです。そこで、人々はこの様な先生を自然と「成功的牧会者、素晴らしい行政家、神のメッセージを唱える使者、復興師、神に伏せる膝の師、祈りの師、善き羊飼い」と呼ぶようになりました。

先生は、今も日本宣教のため福音宣教会を組織し、会長としてその務めを果たしておられます。本校よりピスガ聖会の講師として、崔 世雄先生をお願いしたいとのご依頼があった時のことです。「徐先生、私はこの頃日本宣教のために祈っていたところです。」講師ご承諾の応えでした。まさに神様のお導きです。ご盛會を心からお祈りします。

(韓国仁川市在住)

伝道のとびらが開く

仁川桂山中央メソジスト教会

名誉牧師 崔 世雄監督

韓国の教会であっても、伝道に対してたくさん
さんの悩みを持っています。なかなかうまく
いかない。時折しんどくて苦しい。そのよう
に感じています。伝道は一つの方法があるの
ではなく、実に多彩です。

大声で叫ぶ

私たちの教会は1980年代から本当の意
味で伝道の運動が起きました。1979年が
まさに終わろうとした時です。新しい年を迎
えようとしていました。神さまのご計画と私
の考える牧会方法とが合わなければと思いを
めぐらしていました。熱心に祈りました。祈
る中で感じました。「とびらが開く教会」とい
う言葉でした。でも、私にはこの言葉が理解
することができず、とびらが開く教会と書い
て、誰もいない教会堂に貼って大声で叫んで
みました。そして、深く考えてみました。そ
したら、神のみ旨のように思えたのです。

そして、新しい年の一週目に、今年の教会
標語は「とびらが開く教会！です。」と発表し
ました。共に唱和しました。そして「とびら
が開く教会！とびらが開く教会！・・・」、繰り
返すと、何だか知らないけど、とびらが開か
れる気がして来ました。そして、私は「皆さ
ん！私たちの教会のとびらは開かれなければ
なりません。祈りの、伝道の、そして祝福の
とびらです。その中で先ず伝道のとびらが開
かれることが最も重要です。」と、続けて説教
しました。全員でこの一つの標語を持って祈

りました。幼い子ども、男女問わず、食事の
時も「主よ！伝道のとびらを開いて下さい！」
と祈り続けました。そうすると何と伝道のと
びらが開かれたのです。その年、1053人
の新しい人々が教会に入って来たのです。

火さえつけば

教会の方向性をハッキリと決めるべきです。
ある人が、汗をかきながら走って汽車に乗り
ました。隣の人に聞きました。「この汽車はど
こに行きますか？」この人は自分が乗ってい
ながら、汽車がどこに向かっているのか分か
らない。私たちは、教会がどこに向かってい
るか、その方向性を明確にしなければなりま
せん。そして、目標を決めるのです。神様は
目標を決め、計画を立てることを望まれます。
計画もなく目標もなく生きる人は、どんなに
熱心に走っても、先ほどの行先も知らない汽
車に乗った人と同じです。目標を伝道に置く
べきです。まず、この運動が起こるために祈
るべきです。すべての運動は、聖霊さまが臨
むことによって始まります。聖霊さまが、運
動の火をつけて下さらなければなりません。
だからイエスさまは「エルサレムを離れず、
聖霊が降るまで約束を待ち望みなさい」と、
言われました。なぜなら聖霊が臨むときに、
私たちは聖書が語るイエスさまの証人になる
のです。

ある牧師さまが100人を集めて伝道につ
いて説教しました。集まった人たちが伝道す
るように期待いたしました。しかし、多くの
信徒は静かに聴いて帰って行きました。その
後、何にも変わりませんでした。が、その中
の一人の人が伝道の使命を持つようになりました。
そして、伝道の火が燃えようになりまし
た。イエスさまは「私は火を投ずるために
来た」と言われましたが、この火をつけるこ
とが難しいのです。祈りの火、奉仕の火、献
金の火においてもつけることが難しい。火さ

えつけば、この火を消すことはできません。

聖霊の働きによって

私たちの教会に一人の女性の執事さんがいました。56歳で仕事を持ちました。服を縫ったり、ボタンを付けたりする仕事です。この方は夕方6時半に会社から帰りますと、顔を洗って、夕飯を済ませ、伝道に出かけます。私たちの教会で一番伝道する人です。ある人は時間がないから、忙しくて伝道はできませんと言います。しかし、この方は、夕飯を済ませて一年間に何百人も伝道しました。伝道しない人には伝道する時間はありません。伝道する人にはいくらでも時間があることをこの方から教えられました。

ある時、私たちの教会の近くに新婚の夫婦が引っ越して来ました。この執事さん、この若い夫婦の家庭を伝道する目標を決めて、この家庭のために毎日祈ります。そして、毎晩一日も欠かさず、その家を訪問しました。引っ越して来た時には、この夫婦はこの地域に知り合いがいませんでしたので、この人の訪問を喜んでくれました。しかし、毎晩になるといい加減嫌いになり、この人と会うのが苦しくなりました。毎晩の訪問に、この夫もその妻も気持ちが収まらず、怒りを表し、最後には「早く帰って下さい。」と、言葉をぶつけました。しかし、この執事さんは、「神さまを信じ良い家庭を作して下さい。幸せに暮らすために神さまの祝福を受けなさい。」と、根強く忍耐して教会に来るよう誘いました。やがて、この夫婦は教会に来るようになりました。このように彼女は、毎晩伝道を続けました。

この執事さん、文字が読めません。教会に来て聖書が読めません。私は、神さまとイエスさまの間柄がどういうことか知っているだろうか。何と言って伝道するのだろうか。不思議に思いました。しかし、それにも、関

わらず、10分でも、15分でも熱心に語り伝道します。あまり熱心すぎて人の顔につばをパッパパッパと吐きかけるほどに。ある時に若い一流大学を卒業した人が、この執事さんに導かれて教会にやって来ました。30代初めの綺麗な人です。この女性、自由気ままに生きる人です。頭はすごく良い印象を受けましたが、ツンとして、とにかく人の話を聞きません。聞くとところによると、その夫の話も聞きません。

私は不思議に思いました。字も読めない無知な女性に誘われて、学校に行って勉強したことがない人が、どうして大学まで行った女性を教会に連れて来ることができるのだろうか。本当に不思議に思い、私自身考えさせられました。人間の力で伝道するならば、誰もがそのように思うでしょう。しかし、伝道は聖霊さまの働きです。人が伝道することは大切ですが、でも人には限界があることを知らなければいけません。考えて見て下さい。偉大のように感じる人であったとしても自分の心も自由にならないのが事実です。どうやって人の心を思いを感情を変えることができるでしょうか。結論は何でしょうか。人の力、人間の力では伝道できないということです。聖霊の働きによって伝道はできるのです。

この執事さん、60歳過ぎてアメリカに行くことになりました。それで「牧師さま、大使館に行ってインタビューを受けることになりました。ビザをもらって、アメリカに行けるように祈って下さい。」と、言って来られました。韓国語も書けない、まして英語も話すことも書くこともできないこの人、ビザが下りるかなあと不安でした。大使館に行き帰って来ました。ジーンと顔を見ました。顔が暗い。私は聞きました。「ビザは下りましたか？」彼女は怒りながら「出ません！牧師さま、祈って下さったのですか？」「ああ、それは神さまがあなたを行かせないようにするためです

めですね。」「では、忘れて伝道しましょう。」そして、幾日経ちました。また、この執事さんがやって来ました。「牧師さま、今度は必ずビザが下りるようにお祈りして下さい。大使館に行きます。」私は、悩みました。不安になりました。下りたとしてもアメリカで生活できるだろうか。この人のことを考えると…。でも心の中の葛藤を感じながら祈りました。「神さま、最善を成して下さい。」彼女は帰って来ました。その顔は喜び溢れていました。ビザが下りたのです。

その後、皆と別れてアメリカに行きました。彼女はアメリカに行ってどのような暮らしをしているのか。私は、彼女のことを考えると不安でした。しばらくしてテープが一つ送って来ました。彼女は手紙が書けませんから、自分の声を録音し、アメリカに着いた日から日記のように報告して来たのです。アメリカに到着し、旅の疲れで何日か寝込んだそうです。しかし、立ち上がり伝道を始めました。どこを探しても彼女の住む町には韓国人はいません。韓国人がいなければ伝道する方法がありません。彼女自身伝道しなければ人生の意味を見い出せません。悩んでしまいました。しかし、気持ちを取り直して、自分の息子に聞きました。「この町には韓国人は住んでいないのか？」すると、アメリカの兵隊と一緒に住む韓国人の女性たちがいる町があることを教えてくれたのです。でも少し遠い所です。そこで、「私を朝、車に乗せてその町へ連れて行って下さい。」と息子に頼みました。

彼女は、毎朝ご飯を食べて出かけては、韓国人に出会い伝道しました。そうすると、彼女の伝道で信徒たちが30人となりました。教会がありません。彼女は教会を建て、牧師さまを呼び教会を始めました。そして、しばらくの時間が経ちました。私たちの教会員である信徒が博士号を取るためにアメリカに渡りました。ある日、大きなマーケットに買い

物に行きました。マーケットの入り口に可笑しな人が立っていました。よく見れば、日本人のような顔にも見えるし、中国人にも韓国人にも見える。尋ねると韓国人でした。この人は脇にたくさんのチラシを抱えていました。伝道用のチラシです。日本語、中国語、韓国語、英語といろんな言葉で書かれた伝道用のチラシです。日本人が来ると日本語用を、中国人が来ると中国語用を……。チラシを渡して伝道します。彼女が聞きました。「あなたはどこから来ましたか?」「私は韓国の仁川です。私はクリスチャンで教会は桂山メソジスト教会ですよ。」「えー、崔先生の教会から私も来ました。」二人は異国の地アメリカで偶然に出会ったことに泣きながら喜びました。そして、彼女は挨拶し別れる時にたくさんの伝道用チラシを彼に渡しました。「あなたもアメリカにいる間は伝道しなさい。」彼はたくさんのチラシをもらってもどうしてよいかわかりません。一日中それを配ることもできない。そこで、ごみ箱の横に置き逃げました。

祈って進む時に

今、この元執事さんは84歳です。84歳のお婆さんが伝道しています。皆さまはどのようにお考えになりますか。私たちは他のこのために、私たちの人生を浪費しています。私たちに必要なことは伝道しようという心です。意志です。しようとする使命感だと思います。そのような思いを持って行動する時に、その中から伝道する方法が見つかるでしょう。なぜなら祈って進む時には、聖霊さまが導かれるからです。

(2007年8月号「流れのほとり」より転記)

編集後記

大暑の候、皆さまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。日頃のご加禱ご支援に感謝致します。